

## 特集 愛地建コン座談会

## すばらしい愛地圏域の未来を創造する。



【実施日】平成19年10月2日(火) 午後2時～5時

【場所】名古屋市中区りそな銀行名古屋ビル 会議室

【出席者】岸田 真代 氏 パートナーシップ・サポートセンター代表理事  
日本NPO学会理事

長谷川明子 氏 1級ビオトープ計画管理士 環境カウンセラー  
市民団体「ビオトープを考える会」会長

菱川 和英 氏 東郷町議会議員(元)議會議長 東郷町PTA連絡協議会会長  
菱川木工(株)経営者

本守 真人 氏 元愛知県建設部技監 元(財)愛知県都市整備協会常務理事  
愛知・川の会会长 近自然工法研究会会长

久野 格彦 氏 愛知地域建設コンサルタンツ協会会长

磯貝 洋尚 氏 愛知地域建設コンサルタンツ協会ビジョン委員会顧問  
風土工学デザイン研究所理事

(司会) 倉員 光東 氏 愛知地域建設コンサルタンツ協会(元)ビジョン委員会委員長  
聴講者 愛知地域建設コンサルタンツ協会幹事 16名

【資料】愛地建コンねぼーと No.10】

## 座談会の開催に当たって

★司会(倉員)／本日は、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。進行役を努めさせていただきます倉員と申します。

我々、愛知地域建設コンサルタンツ協会とそのメンバーは、座談会のテーマでもあります「すばらしい愛地圏域の未来を創造する」を命題として掲げております。

アンケートによってこの地域の方々の希望とかニーズを集めて私達なりに分析を致しました。また、この地域の文化それから社会構造、及び今までの江戸時代からもっと古い時代までの地域開発の歴史等も調

べて、これも特集してまいりました。そして、この結果を基にして「未来の子孫が豊かな人生を楽しめる生活環境を創造する」これを基本コンセプトにして「愛地建コンねぼーとNo.10」に載せて披露させて頂いております。

この我々の「夢構想」についていろいろなご意見や批判、ご批評それから提言などを頂ければと思います。

## 第1部

## 「未来の子孫が豊かな人生を楽しめる生活環境を創造する」

★司会(倉員)／それでは、紹介も兼ねまして菱川先生からお話をいただければ幸いと存じます。

## ■故郷づくりは、子供たちと共に感謝の気持ちを育む環境から

★菱川／私は東郷町議員になり制度上は今期7期目ということでかなり長く町政に関わっております。

東郷町全体として取り組んでいるのはふるさと東郷づくり。その中でテーマとしてあげているのが「水と緑とボートのまち」

です。愛知池を中心としてボート活動を盛んにしております。

そんな中で、自然と共生した町づくりをテーマに東郷町は動いております。私の理念としてやっているのは、町づくり、国づくりでは幼い子からの意識として親を敬う気持ち、年長者を敬う気持ち、ひいては郷土愛、そこから愛国心に繋がっていくのではないかと。やはり子供の教育環境、子供の感覚的な育て方と言いますか、地域に対して感謝する気持ちを育していくという事をテーマにやってきております。

その中で、安心安全を守っていくためにはどういう事から始めたらいいか。それは「隣近所の付き合い」が大きな要素であろうかと思います。今始まっているのは地域の声駆け運動、地域の融和、仲良くするとか。そういうお金のかからないようなやり方から進めていくことなど。そのようなことに取り組んでおります。

★司会(倉員)／ありがとうございました。今、菱川先生から故郷づくりは、子供のときから年長者を敬う、郷土愛、地域の声掛け運動など、非常に有意義なお話をいただきました。

それでは岸田先生どうぞよろしくお願ひいたします。

## ■企業とNPOを結ぶ

## パートナーシップ・サポートセンターとは

★岸田／パートナーシップ・サポートセンターというNPO法人の代表をしております岸田と申します。どうぞ宜しくお願ひいたします。

我々の活動の紹介から始めたいと思います。実はNPOというものは来年で法律が出来て十周年になります。私自身は1993年位からNPOに関わっておりまして、かれこれ15年くらいになります。私が最初にアメリカに行った時に、NPOというのは一体何なんだろう、日本の社会と仕組みが違うなと感じたのが第一印象でした。

パートナーシップ・サポートセンターというのはNPOと行政と企業という、その三者を結びつける役割をしているのですが、中でも特にNPOと企業の協働を推進するということを我々のミッションにしています。

「パートナーシップ大賞」という形で全国から募集し、今迄で約100の事例を集めました。これらは企業とNPOの協働事業のモデルとして、各回ごとに出版をしてきました。

特に今、CSR(企業の社会的責任)が注目をされていますが、実はNPOとしてそのCSRにどう関わるのかというところを一つの大きなテーマとしておりまして、「NPOから見たCSRの推進」を掲げて、実際にそれを本にもしたり、今ちょうど全国の企業のCSRについてヒヤリング調査などしたりしています。

もうひとつ、先程言ったNPOと行政との関係もかなり重要なテーマでもあります。その中で言えば、昨年から愛知県が地域協働促進という事で各自治体とNPOとの協働をより具体的に実践しようと、それぞれの県内の自治体で職員を対象にした研修を行っていますが、パートナーシップ・サポートセンターは「市民参加の政策づくり」等をテーマに職員研修を担当させていただいたりしております。

★司会(倉員)／ありがとうございました。岸田先生には、将来の子供たちに与える世界はどういうものであるかという事について行政、企業、民間市民三者の協働という話をいただきました。

次は本守先生に専門的になるかもしれません、ざっくばらんな話をして頂けたらと思います。

## ■「近自然工法研究会」の誕生からの流れ

★本守／まず、この協会でアンケートをとられて、子供も大人も安全安心の立場から言って「心配」と言うのが地震、洪水が大気汚染に伍して並べられてるのに非常に興味深く思いました。



私は現役の頃から治水を担当してきたわけですが、戦後中小河川の治水の面を中心に改修をしてきて、シビルミニマムと言われる時間雨量50ミリ対応の整備がようやく5割を超えたところです。下水道の汚水の整備が6割位ですね。汚水の整備は雨水排水の整備と同じレベルで行いますので川の整備と内水排除の均衡がやっと取れてきたかなという感じです。

たまたま私が多自然とか近自然という言葉に触れたのは今から16年前ですが、その頃からなんとかこのコンクリートだらけの川を再生させたいと思いつつやってきました。多自然の理念とかあるいは自然の生態そのものをよく分からずにはかえって変な工事になってしまふということもありまして、反省をし、遅ればせながら退職してからでも何かお役に立ちたいと思いまして近自然工法研究会というものを立ち上げました。

この研究会は行政の現役、コンサルタント、建設業者、造園業者を含めまして、いわば近自然川づくりを協働してやるべき3者ないしは4者の現役のバリバリが集まって勉強し、発信するということです。

### ■自然の保全と治水利水とは絶対にトレードオフではない

★本守／去年、スイス、ドイツに行きました。“近自然工法の今”という事で勉強してきましたが、その時に、はたと気がつきました。治水利水と環境とはトレードオフの関係にあるというのは正しくない。例えば狭い川というのは用地を買って広くすればいいのでその方向にどうして努力しないのかという感じですね。つまり真剣な治水利水、人間の為の最小限のこの行為が結局は河川の環境改善に資するのだということです。

今の近自然治水の一つの考え方ですが、日本では昔から霞堤とか遊水池とか、洪水が堤防を乗り越える場合わざと低い箇所、すなわちフューズをこしらえるだとか、二重堤をこしらえるだとか色々なリスクに見合った施設という形で非常に優れた治水をやってきました。そういうふうに洪水が溢れてもいい、無被害な水害にしていくという事と同時に土地利用がきっちり出来ていないと駄目ですね。つまり環境の問題も金銭の問題も国土のあり方、土地利用のあり方に結びつくと思います。

今日の「素晴らしい愛知圏域の未来を創造する」の中で土地利用の話をしておられます。我々はもっと自分達の土地利用の議論をしていくべきだろと思つております。

★司会（倉員）／どうもありがとうございました。本守先生からは長い間携わられた公共事業やインフラの提供の視点から在職時にお考えなったことと、その後ライフワークとして取り組んでおられる、お話がありましたので、是非後ほどお話をいただきたいと思います。

それでは長谷川先生お願いします。

### ■「ビオトープを考える会」発足から10年目を迎えて

★長谷川／ビオトープを考える会というのを始めましてもうじき10年になります。ビオトープ管理士を取得した者が当初集まってきた会なのですが、ビオトープ管理士とは、平成10年に財団法人日本生態系協会が初めて日本に導入した民間資格です。

資格というものの、私はあまり重要性を認識していないのですが、この「ビオトープ管理士」という資格のおかげで、今まで土木とか建設など自然を開発しようという人と、逆に私がベースにしているほ乳類とか生態系とか、自然を保全しようと学んでいる人も受けたという事で、資格を通じ同じテーブルで少し議論が出来るようになったという意味では良い資格ではないかなと思います。



長谷川 明子 氏

この資格をきっかけにしまして、まだビオトープという言葉が単なる池とか、作られたものだという認識でしかなかつたのですが、本来の生態系をどう維持するの

か、これからどういう良い自然環境をもう一度取り戻していくのかの根本的な議論がなされるようになりました。「昔は自然があって良かったよね」と聞きますが、多くの先人の方々のおかげで自然災害を克服してきた歴史があります。しかし、目の安全を重視するあまり、その時に自然の重要性を忘れてきてしまったと思うのです。しかし今であれば、まだ開発前の自然環境を記憶している人がいるので、それはもう一度戻せる気がしているというか戻さなければいけないのではないかと。

これは知識だけあってもいけないという事で、多くの市民の方々と力を合わせて「ビオトープを考える会」というのが作られたということがあります。

### ■環境首都の柱は生物多様性の仕組みづくり

★長谷川／今は、あつという間に自然環境の保全を中心に据えてやっていかないといけない世論になりました。この愛知県もそうですが、名古屋も環境と言うのが行政の中で柱にしようとしていますし、目指す方向が環境首都となっています。その中で自然環境はどういうふうに取り戻していくのだろうということで色々な行政単位の中での課題になりつつあります。

特に今度2010年に愛知県で生物多様性条約という国際会議が予定されていますが、今それで日本では生物多様性国家戦略のパブリックコメントを出しているのですが、実はそこで先程本守さんがおっしゃられた、「グランドデザインをどうするのだ」ということが明記されています。私はこの資格をきっかけに河川の方々とかコンサルの方々とかそういった土木系の方々とお知り合いになる事が多くなりました。今後、皆様と交流し、お互いに知恵を出し合う必要があると実感しています。そして、保全されたエリアを子供や多くの人たちと楽しみながら次世代にどのように伝えていくかが課題なのではないかと思います。

★司会（倉員）／ありがとうございました。長谷川先生には開発という視点から、インフラ整備計画の中で生物多様性というものをどのように考えていくのかについても少しお話しをいただきましたので、後の議論の中でまたお話しいただければと思います。では次に久野会長には今色々な活動をされている中で、地域開発のコンサルタント集団の長として、また、小さな子供たちの父親としてはどういう世界になるのだろうかということについて日本の子供たち、世界の子供たちの色々な形から何かお話をいただければと思います。

### ■未来の子供たちに「本当の豊かさ」を教えるには

★久野／私は仕事の関係で海外の途上国に行く事が多々あります。日本の子供と途上国の子供との違いは、日本の子供がもの凄く豊かな環境に育つていて、まるで完全な温室育ちの子供に出来あがっているという事です。

昨今の新聞の三面記事を賑わすのは、いじめ問題で、いじめがあって、いじめがゆえに自殺があって、がゆえに子供が親を殺す。そういう事が日常平然と活字になっているのがこの日本です。では貧困や差別がその原因となっているかと言えば、日本は世界でも類い希な物質的に豊かな国です。このねじれの現象は何なのか。途上国に行って子供たちを見ると、その国の子供たちはお金が無くて、貧乏なら貧乏なほど元気で逞しく明るく見えてしまう。

フィリピンの離島の片田舎で、幼稚園児くらいの子

供が二人で小さなカヌーの後と前に乗ってシーソーをやってる。どちらかが激しくゆすると、どちらかが川の中にドボンと落ちるんですよね。そして一つと水面に出てきてまたカヌーに乗るんですよね。親は誰も見ていない。だけどそれが遊び。でもそれは彼らの生活そのものであり、子供たちにとっては生活そのものが遊びの一部だからやっている訳です。そういう子供たちが、強くな�재が無いんですね。

日本だと非日常的なんですが、途上国の村の子供には、ごくごく普通の話ですね。そんなことを庄内川でやつたらえらいことですよ。誤解の無いように申し上げますが、別に途上国が偉くて日本が悪いわけではありません。では何故、日本はこんなに違ってしまったんだろう、ということ僕が常々考えている話なんです。

先ほどの本守さんの話で川の話がありましたが、僕は子供の頃堀川端に住んでいたところがありまして、未だに同じ堀川の夢を見ます。堀川が綺麗になって清流が流れ、魚が飛び跳ねて僕はそこで水遊びをするという、もう五十過ぎたおじさんが相変わらずその夢を見ます。僕が子供の頃住んでいた堀川は、今よりももっと汚れた川だったんですが、都会の川というものはそういうものだと思っていたんです。自分のイメージの中に、テレビの中で見る川、都会以外のところに流れている川が出来上がって、きれいな川で遊んでいる子供たちを見ると羨ましいと思ったんでしょうね。だから未だにそんな夢を見ます。



じゃ、そんな美しい川を僕たちがこの地域の子供たちに与えられるかという事

が一つテーマになると思います。

豊かさというのを一体何かという事をもう一度見直しする必要があると思います。そしてこれは行政でも教育でも國の方針でも何でもなく、一番肝心なのは、子供たちの親が何を考えてどう行動するのかという事が最大のポイントではないかと考えております。

★司会（倉員）／ありがとうございました。

久野会長から、我々の業界の生業の件もお話しをいただきまして、これから先の子供達とどう関わってゆくべきかというポイントをお話しをいただきました。では、磯貝顧問から「未来の子孫が豊かな人生を楽しめる生活環境の創造」というものの考え方についてお話しをいただけたらと思います。

## ■基本コンセプトは

### 「豊かな人生を楽しめる生活環境を創造する」

★磯貝／第5次全総計画というものがスタートしたのですが、これから国土利用、国土にどういう投資しようかと、国家戦略をどう組み立てるか地域活性化をどうしようか、格差社会をどうしようか。その前提が、現在世界は経済戦争になっている。しかし日本は国土にここ10年間何も投資をしなかった。このままでは世界経済戦争に負けるぞ、今の豊かな生活を維持できるのか。このような考えで第5次全総が進められているように思います。

その中で私は「未来の子孫が豊かな人生を楽しめる生活環境を創造する」と提唱しました。おいちょうと待てと。このままではおかしいぞ、ブレーキ踏めという事を言っているんですね。世界経済戦争に巻き込まれていいのか、日本は有史以来、状況変化に順応すること得意としてきましたが、現在の経済戦争社会はストレス社会です。

その結果自殺率が人口率で世界で10番目ですよ。3万3千人が自殺しています。先程、会長から子供たちの笑顔が消えてしまったというような話がありましたが、豊かな生活から、豊かな人生を楽しめる生活環境ということにブレイクダウンしようというのが基本コンセプトの本意です。この基本コンセプトに対し、「おいお前、これはおかしいぞ」というところが大切なところあります。

基本コンセプトが合意できれば、以降どのように自然エリア、自然ゾーンをどう構築しようか、土地利用



磯貝 洋尚 氏

計画の基本となる住居、都市、市街化区域をどうしようかと色々と計画があります。すべてがこの基本コンセプトでいいのかというところがスタートだと思います。

現時点では、愛知県でも霞が関でも、第5次全総を作ろうとしています。地域活性化・国家戦略と地域おこしをどうリンクさせて国土にどのように投資すればいいか。概略は、世界経済戦争に生き残るために、物流ネットワーク（港、飛行場、道路）の整備を基本におくことを骨子とし、子孫に利便性の高い国土を残そう!とする考えです。

このような国家戦略は、いかなる環境にも順応（対応）すること得意とする日本の伝統なのですが、地球の果てまでが経済戦争に巻き込まれるのはかなわんぞということで、このような未来の子孫が豊かな人生を楽しめる生活環境を創造するというものを基

本コンセプトにさせて頂いております。

★司会（倉員）／ありがとうございました。

我々愛知地域建設コンサルタント協会の考へている将来の世界というものについては、現在の行政の施策や戦略というものとは違った視点から見ているというお話がありました。ここで本守先生のおっしゃる「自然の保全と治水利水とは絶対にトレードオフではないのだ」というようなことからライフワークにされている近自然工法の普及についてお話をいただければありがたいと思います。

## ■素晴らしい愛知圏域の提案を知事に

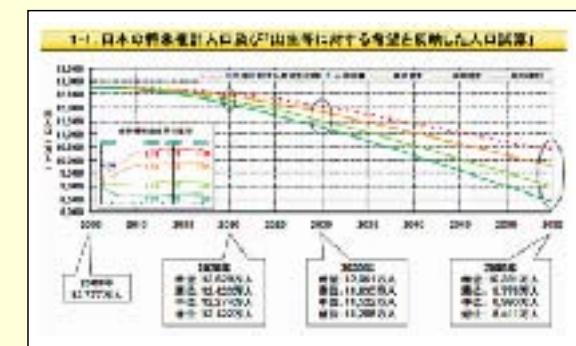
### 持つて行かれたら

★本守／その前に二つコメントさせていただけますか。一つは簡単なコメントですが、今、磯貝さんがおっしゃられたように、国土形成計画が平成20年の中頃位に全部出来上がるという予定で進んでいます。この秋に中部ブロックの広域地方計画の策定が始まりますが、これは所謂地方の協議会を起こして県の提案、或は財界の提案を受け入れてこと細かに決めていくという仕組みに初めてなったものです。

最後は国土交通大臣が決めるんですが、そういう意味では今日色々議論をされて素晴らしい愛知圏域の創造のご提案をされます是非、この愛地建コンで知事のところまで持つて行かれたらどうでしょうか？それが一つの提案です。

## ■未来の人口予測と国土計画

★本守／それから先程久野さんがおっしゃった話に私も非常に共感しますのでもう一つコメントさせてください。



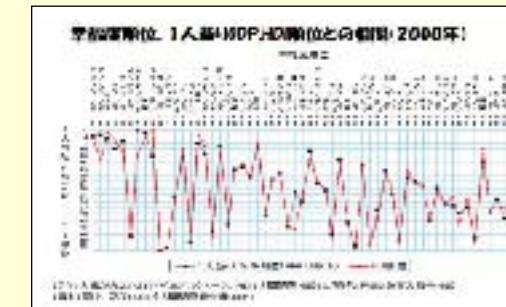
未来の人口予測について、将来2050年の日本の人口の推計がございます。少子高齢化の対策を何とか打った、という前提なんでしょうけど、現在1億2千700万人の人口が2050年には一番下位の推計では8千400万人になる。この数字は実際に66パーセントで3分の2になる。こうなったら日本の土地利用

なりインフラなり色々な物がどうなるかということを頭において考えてみる必要がある。国土形成計画は10年から15年先のことを決めるというだけで、もつと先を（あえて）見通さない。

先日ある先生の講演を聴きましたが、国土形成計画と肝心の国土利用計画はマッチングさせないと一所懸命、統一をしようとしたのですが役所のタテワリのしがらみで出来なかつたと。これは何だろうと私は思いますね。それでも8千400万人時代が来るかもしれない。減る事は確かに減るという事を捉えて逆にこれを武器にしてこれからの国土を考えいくべきだろうと私は思っています。

## ■経済的豊かさと幸福度は比例しない

★本守／次にUNDPの資料から経済的豊かさと幸福度、一人当たりGDPとHDI（人間開発指数＝所得と寿命と教育の複合指標）との相関を示しました。



何のグラフかと言いますと横軸、上にずらりと国の名前が書いてございますね。これは60カ国位の国民を相手に「あなたは今幸せですか」と質問をして「幸せと思っている」という答えが多い順番に並んでいます。一番幸せと思っている国はアイスランドですね、一番不幸せはウクライナです。縦のほうですが一人当たりのGDPとHDI。GDPとHDIは上手に重なっていますね。上手に重なるようにHDIを決めたんだろうと私はいますが、そのGDPと幸福度の順番が合っているかどうか。

インドネシアが幸福度は6番目ですね。GDPはもの凄く低いですね。49番目くらい。それからその次はタンザニアの10位ですか、つまり、収入は多くないだけれども、幸せに感じている。大人も子供も自然としっかりと付き合っている。そういう国民じゃないかなあと思つたりしたんですね。

1日の収入が1ドル以下の最貧層が地球上では10億人居ると言われていますね。1日1ドルでは確かに生きていけません。貧乏が良いとは言いませんよ。言いませんけど、所得に見合って必ずしも幸福感を持っているというわけではないなと思いましたね。

先程どなたかがおっしゃった自然と元気。元気のある子。その辺で幸せを感じるんだなと。日本の所得

は結構高いんですが、まあ23番ということで私はこのグラフを見て「うーん」と考えました。今、久野さんの子供の議論、子供のような大人という感じで幸福感を味わっているのかなあ。これが二つ目のコメントです。

## ■自然の営力に任せるスイス・ドイツの近自然川づくりの現状

★本守／最後はヨーロッパの近自然工法についてスイス・ドイツのことだけをぱぱぱと写真でお見せします。

この中で川にゴミが殆ど見られないという事を確かめていただきたいと思います。ゴミのない川だけを撮ったわけではありません。

これはチューリッヒ市のチューリッヒ湖から流れ出しているリマート川ですが、背後に家があるにも関わらず石積み護岸です。ブロックで張っていません。流れは相当豊かで流速も結構ありますが、この石積みで保っているわけです。



下水事業によるテス川の再自然化。100年ほど前に比べて8メートルも河床が下がった。

つまり川を直線化して護岸を張ったので流速が増し、どんどん川底が掘れていった。向こうは地下水が水源になっていますので、地下水位が下がるということで、それは困る、これ以上川底が下がらないというように川の護岸を外して代わりに石の水制を用いて出来るだけくねくねとした川にしました。

…中略…

これは高速道路のミチゲーション、右下のほうに走っているのは高速道路。それと交錯しているのが川ですが、そこに高速道路の水質の悪い路面排水を浄化する沈殿池を造る際に、そこと交錯する川を近自然化しました。この高速道路は15年間ほど、色々なミチゲーションの案を出して3回くらいの住民投票でやっと本物になったという事です。

あまり分かっていただけなかったかもしれませんのがこんな感じです。

★司会（倉員）／ありがとうございました。

今、本守先生から我々のテーマとする「未来の子孫が豊かな人生を楽しめる生活環境の創造」というのを、やはり豊かな自然というのが将来のコンセプトになるだろうと言うことで、その豊かな自然を川、水

辺という視点から研究をされているお話を頂きました。どうもありがとうございました。

将来の姿という今一つの具体的例として、川というものを見つめたいと思います。菱川先生、それについてお話しください。

### ■ダム問題は川の流れを止めるに起因していないか

★菱川／まず、ダムを作ってきた方にお聞きしたいのですが、川の流れるところには集落がありますよね。そこへダムを作つて反対運動も起き、川の色々な自然環境も破壊される問題も出てきていますよね。でも水はどうしても律したいし、水はどうしても欲しいんですね。

そんな中で小さな堰で導入路を作つて違つたところに湖を作る、川の流れ、流域から外れたところにダムを作るということは、今まで考えられなかつたのでしょうか？

★磯貝／日本の農業用の溜池は河川本川から外れた支谷で殆ど賄つてゐる。今度、徳山とか新丸山ダムというのは木曽川、揖斐川の本川を堰き止めようという事に対して、おっしゃられていると思います。もっと味噌川ダムとか阿木川ダムとか支川であり、本川ではなくてサブの方に作られています。味噌川ダムもサブですね。

出来るだけそういう上流域で人が生活して市街化区域から外れたところで何とか立地を求めてはいるんですけども。

★菱川／ただ、本川でずっとダムを作つてきているのではないか。それがやはり自然破壊だと。まあ、色々な事で問題が出てきているという中で、その流域は堰くらいで要するに小さな堰で。水の流れに影響をおぼさず水を導入して貯水池を作る。

★本守／河川域外貯留のことですね。ちょっといいですか？ダムの原則は、明治時代の物部博士のお考えですけれど、洪水を貯めて（洪水調節）その水をゆっくり流して使うこと（利水）です。ちょっとした堰で洪水は止まらないですね。

★菱川／ただね、堰をつてある程度出来ますよね。普段の水も持っていくし、増水した時なんかは一時的に多く導入する。

★本守／あの、その程度の話なら寒狭川頭首工の例がありましたね。あれが洪水を毎秒15トンでしたか、山を越え違う支川へ持っていく。これは、そこに大き

なダムが無いだけで堰はあります。その程度のものならいいのでしょうか。

★菱川／ダムを作る立地を考えてね。もっと下の方でもいいから大きなダムをそこに作れば水は十分稼げる。ついでに発電も出来る。そういう工法が過去には考えられなかつたのかなと思いましてお尋ねしたのです。

ダムを作るにはね。「川を止めてしまうから問題だ」となる。「自然に対して問題がある」とか言って騒がれるんですね。川を止めたダム湖の所には、集落があるんですね。それを防ぐためにも、集落が無いところ、別の谷の方に導入する。その谷あいでダムを作ると。

★久野／そうすると、どうなんでしょうね。費用対効果の問題から考えると。

★菱川／多分問題に。自然と共生とか今後はそういう工法が必要になってくるのではないか。ダムがどうしても欲しい。だからそこで逃げを作つてやりますから、自然は壊しませんよと。でも水は貯蔵しますよと。そのように提案していくば、それは理解を得られる工法として費用対効果が少し上がろうがダムは出来るのではないかと。

★磯貝／東郷調整池などは、心地よい空間として受けられているのですか？水と水辺とボート競技を盛んにやっているし。土堰堤だから、やさしいイメージなのでしょうか。コンクリートダムが問題視されているのでしょうか。

★菱川／あれは表面は岩で中心にコアを持つアースフィルの堰堤ですよね。あれはまだ規模が小さいです。調整池だから。もっと大きい物を別な何も無い大きな谷あいのところに作つて、そこに水を導入すれば。

★磯貝／今、ダム反対、環境破壊という割には、冬場は洪水は少ないんだから、台風、大雨が少ないんだからもっと貯めろと。制限水位にしろと。台風期になるとずっと下げておけと。そうすると、湖に赤っぽいベンベン草も生えていない裸地が出るんですね。それを見て汚いぞ、環境破壊と言われるのでしょうか。

★菱川／川を止めてしまうから言われるんですよ。魚が往来できなくなる。長良川河口堰で散々言われたのは、川を止めるからいけないと。

★本守／まあ、あの本川を止めるのも、支川を止めるのも僕は理屈は一緒だと思いますよ。

山の中で容量のそんなに大きい支川は逆に立派な支川ですからね。逆に3メートルとか4メートルの高さで堰き止めるというのも、これもやっぱり遮断になるんですよ。何も100メートル級のダムだけではない。

★磯貝／ダムが環境破壊であるという大きな社会問題視されていますが、ダムで人口の湖ができた頃はほとんどが鳥獣保護区に指定されているんですね。なかには国定公園などに指定されています。環境破壊でなくて逆に環境を豊かにしているのではないでしょうか。

**反省！ 異常気象、天変地異の世紀、渇水・洪水に対する備えはこれで十分か。出席者はダムの必要性を十分認識した上でこの議論が始まった。今までのダムは、機能効率・投資効果などを視点にし、生物の生態など自然環境に配慮することが欠けていた。現在はダムサイトの選定に、集落人家・生態系を含めた検討をしているが、尚市民合意形成に苦慮している。これからは市民に心地よい空間を提供することが土木屋の使命として心がけたい。**

★司会（倉員）／少し脱線気味ではありますが、生活を豊かにし、安全に住むためにダムを作る。こういった施設を作る時にに対する市民や企業、インセンティブなどの考え方について岸田先生はどのようにお考えになりますか。

### ■一般市民が主役の公共事業の時代

★岸田／私自身が実は公共事業評価監視委員ということで7、8年公共事業の問題に関わさせていただいているのですが、その中で一部道路を建設するところで訴訟が起きているんです。一般の人が見た時に、その道路が本当に必要なのかどうか。恐らく作るのを決めたのは何十年も前なわけですね。それが何十年も経つてまさに今生物多様性などの課題が出てきているときに、自然を壊して新たに道路を建設する。そのことによってそうした問題がクローズアップされてきているわけです。

私自身は、行政との協働とかあるいは企業との協働とかという時に、そもそも政策を作るときの問題がとても大きいのだろうなと実感しています。これまででは殆ど、多分皆さん方が、コンサルタントが絵を描く。多分この土地をどう利用するかという事に関して。殆ど一般市民抜きに描かれてきたのではないかと思うんですね。



岸田 真代 氏

その絵が実際に実現していったのかとか、そこに住んでいる人にとってそれが果たしてどうだったのか、という問題が、一番最初に作る時点からきちんと議論されてきたんだろうか。

そういう点が、私は一番大きな問題なんだろうと思うんです。

★司会（倉員）／岸田先生のお話では「個人的ニーズからグローバルなニーズに変わってきている」それから「計画時から完成時まで非常に長い時間の間に、また世間のニーズが変わってきていた」とおっしゃいました。「計画や設計する時にそのようなギャップをどのように埋めていくのか」ということと「実際に作る人と、恩恵を受ける人の間のコミュニケーションがスタートに無かったのではないか」と言うことです。

★岸田／はい、そのとおりです。

★司会（倉員）／二つの点のご指摘を頂きました。それについては計画情報の公開や行政、企業、市民三者の協働作業が少ないといますよね。それについて、自然の面から見たこういった考え方について長谷川先生にお話しをお願いいたします。

### ■公共事業は時間がかかる 再度見直しが必要！

★長谷川／先程のダムの話や、道路の話も同じなのですが、ダムでも道路でも何の為につくっているのかという事の合意形成をもう一度しなおすということが大切なだと思います。今、道をつくっているところは、道路をつくろうと決定した時との時間差がもの凄くあるので。

その当時は、道をつくる、若しくはダムをつくる、と決定した時代には自然環境のしの字も無かつた、交通の利便性や水の治水、利水だけを考えて決定された。

いよいよ着工という時には、もうそこは残された大切な自然環境だったというのが沢山あるわけですね。それを昔の計画どおりに作っていては、これはやはり次の世代に負を残すことになる。そのことに目覚めていかに「自然環境を戻してつくるか」ということが、実は今考えていかなくてはいけないところだと思っています。

## ■単に、生物の数が多いだけでは豊かな自然とは言えない

★長谷川／「あるべき環境、あるべき姿。池にどんな生物が居てくれたらいいのか」を考えなくてはいけないのに、すぐ「魚がいればいい」と言う。よくあるんですよ、「鮎が生息する川が良い川」だって。その鮎って放流した鮎でしょ、というか、琵琶湖から持ってきた鮎でね、本来そこにはいなかったものを持ち込んで、それを自然だと変にすりこまれたりしているのです。それでは、次の世代に怖いことになるのではないかなどと言う危険性も今思っています。

先ほどの長谷川だって、「海からの塩水を止めない限り淡水として使えないんだよ」とはっきり堂々と言いたって欲しいなと。そして、魚の数だけではなくて、どれだけの生き物がちゃんと繁殖しているかが重要なんですよ。開発した自然環境に対するデータの積み重ねと、未来にどういう姿を描くかが立場によってずれていったり、もしくは無いのは一番不安だなと思いますね。

## ■長良川河口堰のおかげで水害がなくなった

★菱川／ちょっと補足していいですか。私はボートの関係で海津市によく行っていたんです。河口堰が出来るまではしょっちゅうあの辺が洪水で氾濫していましたらしいです。大変な被害を被っていたのが河口堰が出来てから洪水が一切無いと。非常にありがたいと言う話を聞いてきております。これは河口堰の現今みたいなもんですから。

★司会(倉員)／ありがとうございました。

岸田さん、長谷川さんから、今までのインフラ整備について非常に鋭い指摘を頂きました。もちろん我々設計者や行政の計画者側もこれまでに人々の安全と豊かな経済性を求めてやってきました。その中で環境面を無視してきたわけではなくて、立ち遅れている物、無くなってしまった物を欧米に追い着け追い越せということで優先順位をつけてやってきた。ただしこれから先、今までお話を頂いたことについてじっくり考えていかねばならないと思います。

この辺で、少し休憩に入らせていただきます。

## 第2部 「基本構想計画(夢構想)」に関する議論

★司会(倉員)／では、最初にこの基本構想計画を提案しているビジョン委員会を代表して磯貝さんより基本構想計画の内容について、特に未来に向けた土地利用計画、居住環境整備計画の説明をして下さい。



ビジョン委員会の「夢構想」

## ■ハザードマップを避けた街づくり構想

★磯貝／少し失礼してお話をさせていただきます

ハザードマップをヨーロッパなどの城壁文化、都市を囲むハザードマップの中に市街化区域をやるんだよという発想なのですが。

日本が他民族から攻められるというのは、第二次大戦の空襲以来であり、その後城壁文化とかスクラップ・アンド・ビルトの文化の姿が育っちゃった。

何故そういうことで永久思想というのが日本に育ったなかったのかという事ですが、日本列島と言うのは自然災害、地震とか洪水とか。これが宿命の列島ですから福祉と言う安心安全と言う建前から行くと、私は未来の子孫に豊かな人生と言うのは、これから自然災害に強い基盤整備を第一義的に考えるべきではないかと思っております。

その為に一生懸命に行政が作っているハザードマップがあるでしょと。ハザードマップを絶対かというのは、どうも洪水、河川のほうから見たハザードマップであって、液状化を起こさないとか、軟弱地盤じゃないかとか、急傾斜地崩壊地域とか砂防指定地だとかも、もう少し異なったレベルの検証をしながら、ハザードマップ以外の安全なところに市街化区域を設定して色々な施策をしていったらどうでしょう。

それから農地。私たちは世界の経済戦争に巻き込まれないんだというのでれば、自給自足というのか、他所から相手にされなくとも本当に強い国土づくりという物はどういうあるべきだと。日本人とか大和民族であるという事に誇りが持てる文化ですね。もう一つは食糧自給をどうするんだという事の観点に立つ必要があるでしょうという事で以下細かく色々な事を述べておりますが、基本はそういうポジションでこれからディテールの事について言っております。

★司会(倉員)／内容についてもっと詳しくお話しして頂いて宜しいですか?

## ■千年住宅で衣食住の安全保障を

★磯貝／大まかに言いますと、危ないところに家を建てるなという。例えば中越地震でも、今、日本は「スジカイ」を入れるのに60万円国民に補助しますよと。でも殆ど国民個人のレベルでは実際には出来ないと。だから私たちは千年持つ住居とかをそういったものを全部、公共事業でやりましょうよという提案をさせてもらっています。



千年の耐久性を具備した省エネ住宅

地球温暖化、CO<sub>2</sub>排出対策から言うと、スクラップ・アンド・ビルトなんて非常にもったいない事をしています。永久に保つような縄文文化の堅穴横穴住居みたいな考え方で、千年持つガチガチのコンクリートと外側を緑で囲むような、思想はこういう感じです。

一戸建ての家がどうしても欲しいというのと、将来法律でこういう高層ビルで無いと駄目だよと言うのと、ヤドカリ文化で日本人は一生涯そこから動かないんだと、あらゆる自然災害があろうが引越ししないと、将来自分の家族の人数とか便利さに応じて住み替えできるような公共事業による住宅とか飲食を国、行政で衣食住の安全保障をやるのが世界の中で日本人だと誇りが持てる国、愛知圏域というのを作ろうではないかというのを訴えております。

★司会(倉員)／非常に面白いのですが、すこし分かり難いところもありましたね。色々話をしてもらいましたが、詳細につきましては「レポートNo.10」に書いてございます。

久野さん、それについてもう少し幅広い、他方面も含めた観点から説明を加えて頂ければありがたいです。

## ■日本がとても不思議な国になってきている

★久野／磯貝さんの言われる、将来の事について何か手を打とうという気持ちについては、もの凄く賛成で、何らかの発言を勇気を持ってしていくという事と、地域のためにという事は、大人として必要なことだと思

います。蛮勇をふるって書いておられて、信じられない事も沢山書いてあります。磯貝さんはエンジニアの立場で、土木工学を専攻された技術屋さんの立場で、コンサルタントの仕事としてこういう生業をしてこられたという観点からこれを書き込んでいる。

僕はこの地域に住んでいる一般の人間の将来の事についてお話をさせていただきます。最後の方にお話をさった「公共事業で衣食住を保障していく」ことに関して、僕には異論があります。幾つか例を挙げてお話ししたいと思います。

何年か前に日本発ハワイ行きの飛行機が食事サービス中に大きなタービュランスに見舞われました。この時にスチュワーデスが一人死亡、乗客にも重症者がいました。事故後、乗客達が航空会社に訴訟を起こしました。ベルトさえきちんとしていたらあんなことにならなかつたのに「ベルトをしろ」との指示がなかった。指示しなかった航空会社に責任があると。まず、これをどういうふうに考えるかなんですが、僕に言わせると「自分の命は自分で守るだろう」と言いたい。それを「指示が無かった」、「ベルト着用サインが消えていた為に怪我をした」というものの考え方。いつの間にか日本人はそういう考え方になってしまったんですね。

また別の例。四人でタクシーに乗りましょう。三人後ろに乗って助手席に私が乗ります。その時に助手席でシートベルトをしようとするとタクシーの運転手さんが「いや、直ぐ近くだからシートベルトしなくてもいいですよ」と。『じゃ運転手さん、あんた事故があったときに俺に何かあったら、俺の家族の生活を保障してくれる?』「いや、そんなことはできません」と来る訳で、当然のことながら自分の中には誰の指示もなくベルトをするのが当たり前だと思うんです。

誰かが指示してくれる、有事の際には保障してくれる。生活に不自由な問題があるとすれば、それは行政が悪い、誰かが解決してくれて当たり前、と言うよう甘えたメンタリティが日本人に蔓延してしまった。

このあたりが冒頭に僕が申し上げた日本がとても不思議な国になってしまっていると言うことと同じで、自分の生活というものについて何か不具合があった場合には、それは自分の自己責任ではなくて行政、社会、政府、政治が悪いという意識が常態化した世の中になってしまっている。

磯貝さんの提案は行政が保障する公共生活施設という事ですが、それでは社会に対する日本人の自己責任意識が益々失われてしまうのではないかでしょうか。

学校教育の観点からもう一例。私の友人の小学校の教員がこう言う事を言っていました。PTAで「先生、学校で何を教えているのですか、うちの子は4年生なのにまだ箸がちゃんと使えない。」「先生、一体何

を教えてるんですか、うちの子は5年生なのに正座が出来ない。」といわれたそうです。僕は怒り心頭で「そんなの親の責任だって言ってやれ」って。そしたら彼は「そんなことをしたら、俺職失うよ。」って。

もっと面白くて酷い話があります。友人がマンションの10階に住んでおりまして、子供がベランダから、雨樋伝えに降りて行って5階まで行ったところで力尽きて下に落ちました。幸い直下に植え込みがあったので足を骨折しただけで済みました。「何でこんなことをしたのよ」と言ったら、子供が「前やった時は下まで行けたよ」と。その事件を聞いた学校から教頭と担任が飛んできました。「何ですか?」と聞いたら、「申し訳ございません。学校でちゃんと指導しておりませんで」と。一事が万事でこういうのが日本の常識になってしまっていると思うんです。



久野 格彦 氏

意識が無ければ、折角こういう素晴らしい施設が出来ても上手く有効活用が出来なんじゃないかな。

利用する側の方のメンタリティと子供を育てる親のメンタリティ。社会を構成している大人達のメンタリティ。これが凄く重要なと思います。

★司会(倉員)／ありがとうございました。

それでは菱川さん、この内容についてのご意見とか、これは間違っているのではないかと言ったことなどがありましたらご自由にご発言ください。

### ■権利と責任は「人の問題」

★菱川／考え方は素晴らしいと思います。昔のヨーロッパなんかは一つの村が要塞の中に全部存在していましたよね。そこで衣食住が賄えて生活圏域になつたと。そこでは自分達が協調して生活していかなければ生き延びられなかつた、と言う大前提なんですね。今、久野会長が言わされたように、私が一番問題にしたいのは、やはり人の問題なんですよ。ここに入る人の問題。

今の日本ですと、守られ過ぎていて、全て自分のせいではないんだ。自分はやってもらって当たり前。権利がある。そういう意識の人が多くなった中でこれをやっても内部崩壊が必ず起きると思いますね。やはりそこに自己責任。自分でどう責任を持っていくの

か。そこに居る限りは周りに対して協調性も当然必要になるし、昔の村的な考え方の共同作業も出てきます。自分なりのお付き合いも今まで見たいに勝つて放題にやれず煩雑になることも、当然ながらあると思います。

まず人の問題を大切にしないと仮作って魂入れずで、この問題が大きいかなと。人からだと思いますね。スタートするにはこの指止まれでは無く、こういう考え方に対応出来る人と言うのか、それを募る。そこでどれ位の人数が集まつたんだと。そこである一定の人間を集めて、それからどういうふうにしようかと考えていくのが最初のスタートかなと思うんです。

★司会(倉員)／今そういった、エンドユーザーの権利と責任ということがテーマになっておりますが、それに付きましては三者ぐるみでやっていくとおっしゃっている岸田さん、どういうふうにお考えですか?

### ■プロセスにどれだけの人を巻き込むか

★岸田／先ほど、久野さん菱川さんがおっしゃった「人の問題」で、やってもらって当たり前と思っている人たちが多いという事に関して、私たちNPOというのは、実は「そうではないよ。自分達の暮らしは自分達で作っていくんだよ」というそういう視点からNPOっていうのは出来ているんですね。

例えばいいことをやるからOKなのではなくて、いいことに行くまでのプロセスにどれだけ人が関わり合意を得ているのかと言うところを抜きには、私は本当の意味で人は動かないと思います。

絵は描けるんです。とても立派な絵は描けるし、想像は描けるけれども、そこに到達するまでのプロセスにどれだけの人達を巻き込んでいるのか。インヴォルブメントという言葉で言いますけど、人を巻き込むかと言うところがポイントになるのではないかと私は思います。ちょっと気になったのはコンパクトシティとかという言い方をする時でも、はたしてこれが、市民が参画して描いたコンパクトシティなんだろうかという、そういう検証を常にしながら進めないといけないのではないかと少し思いました。

★久野／一つ教えてください。10年こういう活動をやっておられる中で、だんだん意識を持つて人たちが増えてきたと実感なさっているとおっしゃいました。これは今後もそういう意識を持った人たちが一般的の市民の中に増え続けていくという感じはお持ちですか。

### ■NPOは最大の成長産業である

★岸田／例えば、NPOは今全国で約3万3千なんで

すね。実はピーター・F・ドラッカーさんは「NPOは最大の成長産業である」って言っているんですね。これはアメリカにおいてすら、なんです。日本はまだ出来て10年足らずですけれども、そういう意味では数は増え続けています。

だからと言って市民という自分達の暮らしは自分達でという本当にそこまで理解した人たちが、どんどん増え続けているかと言うと必ずしもそうではないですね。私はそういった意味では本当のNPOらしいNPOというのがどれだけ育つかと言うのが市民社会を作っていく一つの大きなポイントになっていくと思っています。

★司会(倉員)／今お話をありましたように、エンドユーザーのニーズや希望。そういうものが、もちろん非常に重要だという事でしょう。理想的な地域づくりに対して、こういう点では本守さん、どういうふうなお考えでいらっしゃいますか?

### ■環境対策も土地利用も、金銭的インセンティブで

★本守／この提案は非常に素晴らしいと思いますが、例えば水害のこういうところには住むなよなどと書いてございますが、愛知県では県土の23パーセントが水害地帯です。そこに380万人が住んでおります。人間がその氾濫源に進出したのが戦国時代ですから、それ以来何百年も住んでいます。

そういう意味では私は撤退と言うのはやはり難しいと思います。低地に住むと大変だろうと嵩上げ補助をしていますね、また危険だということで、施設の整備も厚くやる。非常に効率が悪い。だから高地に住めば 税金をかけてあげるよというような制度を創つていって徐々に高地に撤退していただくとかね。環境対策も土地利用についても、金銭的インセンティブで市民を動かす。



本守 真人 氏

例えばドイツなどでは金銭的インセンティブをつけています。その代わり消費税が非常に高いですね。日本は5%ですが、私が行ったフライブルグでは19%でした。春日井市の半分位の人口なんですが、春日井市の財政と同じくらいお金があるのです。この19%はどのように使われているのか私は分かりませんが、推測では広く市民から税を集めおいて環境対策、交通対策あらゆる施策にインセンティブをつけながら使っていって知らず知らず

のうちに誘導する。こういう作戦を取っていますね。わが国でも色々な事をしておりますが…効果は?です。

土地利用についても提案に、土地利用計画として、「市街化区域、工業区域、住宅区域、農地区域、湖沼河川森林」と書いてございますね。ちょっと名称が違いますが、ドイツの都市計画には全部これが定められています。建築が不自由なんですね。この都市計画にマッチするか、建て方はどうかとかチェックされるのです。住居区域以外に建てる場合など、現地にちゃんと目標丁張を立て、皆さんに見てもらう。日本には都市計画法と建築基準法がありますが、建築や開発は原則自由な国です。

農地だけは農地法で不自由?。ドイツでは農地も不自由。くりかえしますが市街地も建築は不自由、開発不自由、これが原則。厳密な土地利用計画を作つてそれに則つて行くかどうか、それをきちんとやるということになっています。僕は大いに賛成でこれを無理をせずに金銭的インセンティブでやって行こうということです。

★司会(倉員)／ありがとうございました。理想的な地域づくりについては不自由な制限の中でやっていくのでしょうか。他にもインセンティブはあるでしょうか、特にユーザーの興味がある金銭的インセンティブについて、非常に貴重なお話を頂きました。



倉員 光東 氏

### ■五感を高めるものが傍にあって想像力が生まれる

★長谷川／私も偉そうに自然を守ろうと思っているわけではなくて、生きていることで一杯一杯ですから。ただその時に先ほど久野さんがおっしゃった情報の話ではないですが、その想像する力が落ちたというか、言われたことしか出来なくなっていると思います。

想像する力を高めるには、人間にはない能力を持っている生き物が身近にいるほうが良いんですよ。こんなに小っちゃいのに、こんな動きとか、人間にはできない動きをするですから。それってすごく想像力が高まるはずですよね。冷たいと思っていた水に触ると暖かいとか生温いとか、川は一様だと思つ

て歩いていたら、冷たいところもあるとか。

それで想像していなかったことがその中で起きることに、人間の脳って活性化されてくる。だから五感を高めるものをそばに置いておく重要性があるんです。そういう意味では自然は一番、ただで生きててくれるわけですから、日本の環境にあったものがいいわけです。狸を守っても葉っぱの代わりに直接お金を持ってくれないものですから、自分の身近に自然を置く重要性を言った方が、皆さんに理解してもらいやすいんです。人間にとて気持ちいい環境というものが重要じゃないかな。気持ち悪いのは居たまらないですね。そういう意味で実際にこれを読ませていただいて、千年もいる環境って本当に気持ちいいのかなと。ケチを付けるつもりじゃ無いですよ。



そこで尋ねたいことがあるんですが、日本の文化の話が出てきていますが、「スクラップアンドビルドが実は日本の文化の中に親しんできたよ」「だから何千年と続いてきたんだよ」というのに相反しないかなと。

千年間つぶさないということは、スクラップしないんですね。どういうような意味があるのかなということと、逆にスクラップしなきゃいけないような、しょぼい物を作ってきてしまったから、スクラップをせざるをえなくて、例えば、今まである伊勢神宮とか、良いものを生かすために木を切って20年ごとにリメイクしていく。そのスクラップ、そしてビルトというものが、今後何千年も続く可能性がきっとあるだろうと思う。

だけが数年しか生きていないものは数年しかその可能性がないかなと思った時に、千年続く物がヨーロッパ文化と日本の文化は違いますよと言う事を言っていて、千年住宅かと思うと、どのように私は捉えたら良いのかなと。

それから活性化する森林は、成長過程でたくさんCO<sub>2</sub>を吸うので、切って活性化させる事って重要ですし、日本の生活に不可欠だった切る森の中で生き続けている生き物。例えば、「春の女神」と呼ばれているギフチョウというのは木漏れ日の差す雰囲気が好きとかね。木漏れ日が差さないと葉っぱが育たない、その葉っぱに卵を産んで。このサイクルが木から遠ざかってしまったから、あの里山の生き物が居なくなってしまった。だからもう一度、この里山を見直すとい

うのは、そういう生き物がいる空間を作る。木漏れ日があつて落ち葉が落ちていると気持ちいいから森に親しみたいなど。それは、木を使ってきた里山が近くにあって、そこの生業というかシステムが活かされてこないと、身近にある森は鬱蒼とした怖い森。誰も入らないような暗い森は日本の風土として逆に合うのかなと思った時に、木を使うという事が重要だと思うのです。そうすると木を常に入れ替えた千年住宅なのかなと。

### ■スクラップ・アンド・ビルトはもうやめよう

★磯貝／まず、今迄道路でも掘って埋めて掘って埋めてというスクラップ・アンド・ビルトの場当たり式の短期的な視野で国土形成をやってきたと、不滅とはいいませんが、恒久的なスパンで国土形成という物はどうあるべきだと考えるべきではないかと言いたいのです。

例えば住宅であれば外側は公共事業だけれども内装は自分でどうぞという事なんでしょうけども、嫌なら引っ越せばいいのです。

CO<sub>2</sub>、大気汚染を減らすのが、例えば太陽パネルでもいいよと。しかし太陽パネルを作るのにどの位CO<sub>2</sub>を出すのと。それで耐用年数が10年しか持たないとしたら、本当に自然に優しいのかというような概念を持ったときにこういうスローガンですね。

まさか千年持つとは思っていないんですけど。まあ、50年か100年だろうと。そういう分母を千年にすれば、毎年、毎月の家賃の減価償却分が安くなりますよね。今車でも何でもそうですが。コストベネフィットでも公共事業だと投資効果が1を上回らん事には何にもやれない。

飽きがくるという事については、次の環境に引っ越ししてくださいと。飽きが来る前にこの家は長く持っているんだけれども、中身の住人はヤドカリで自分の好きなところへというのが、まあそんな細かいところを言う議論は無いですが、そういうようなしっかりとした天変地異の自然災害に対して安全安心な愛知圏域をどう構築するかと言いたいのです。

公共事業というよりは福祉の面で年金はどうの、医療はどうのというより、こちら、中越地震あんだけやつてもまだ引越しできないんだと。60万円やるから直せと言われても誰もやっていないですよ。社会はそういうことなんだと。だから頼むから公共事業でこのくらいのことはやってよと言っているのです。

★司会(倉員)／いかがですか?本守先生。インフラの供給者(公社)として是非お答えいただきたい。

### ■皆さんで農業をやりましょう

★本守／いや、やはりそれを公共の供給者でやれと言うのがおかしいですね。社会主義の国なら別でしょうねけども。

ただ市場経済、競争経済で皆、てんで勝手にバラバラでは困りますね。例えば昔のソ連では本の大きさは決まっていた。本箱は一種類で簡単。色んな種類の本を立ててみると分からぬ。そんなところ位はいいかも分かりませんが、家までそうなるとやはり窮屈な感じがするかなと思います。

その代わりと言ってなんですが、この計画で素晴らしいところは、皆さん農業をやりましょうというのは素晴らしいと思います。どれだけの土地が与えられるか分かりませんが、ご案内のようにわが国の食糧自給率は40パーセントです、僕自身は米と魚、豆このくらいあつたら暮らせるとと思うので、食料、水産の普及率を格段に上げる努力をしたらどうかなと思います。

そのためには私もそろそろ100m<sup>2</sup>位の田舎の土地を買って、野菜づくりをやろうかなと思い始めているんですけども。僕は大いに賛成ですね。

今、水資源も無いといわれていますけども、外国から輸入されてくる野菜250万トンを日本で作ろうと思うと600か700億トン必要でしょう。そのぐらいの水を輸入していることになりますね。将来の水資源は大丈夫でしょうか。

★司会(倉員)／今のご意見では、やはり農業を中心とした生活が自然環境との調和も含めて一番ということですが、愛知県域の農業政策として、自給率を上げていくというのは非常に難しいようですね。

では、今まで色々な議論がございましたけども、このビジョンの実現に向かって久野さんにお話をうかがいます。

### ■食の安全・安心といった食育環境にはいいのかな

★久野／農業の話がでましたが、地域産業としての農業の確立も、それを理解し支える地域の意識が大切と考えます。その意味で子供たちに対しての「食育」が非常に重要です。一地域人として小学校の食育プログラムに協力できないかと国機関を訪ねました。霞が関の文部科学省に直接出向いて「すみません、どこでこの話をすればいいんでしょうか。」最終的には初等中等局へ。小学校の授業のカリキュラムの中に「農業」というカリキュラムを作られませんかという話をしに行きました。そんなものはそれぞれの地域の教育委員会に行ってくれと言われて、「ああ、そういうシステムなんですか。」とやっと解かったんです

けど。

所謂、食育のひとつだというつもりでいるんですが、作物は人工的なモノではないので、日差しのあたり具合、土の状態、気候にも左右される。いい作物をと思って期待通りには出来ないんですよ。生き物というの必ず同じように「生産」できるものではないので、失敗したら「リセット」してもう一度一からやり直せるものではない。

そういう事が「食」の裏側にある。「食」を作り出している人たちの苦労を知るべきかなという事で、その理解を子供たちに広めたい。出来ることならばそういう子供たちへのアプローチと同時に、大人たちにも積極的に関わって貢献したい。具体的には各家庭が持つ市民農園みたいなところで実践的に進めてみたい。

自分が育てて収穫した作物は、同じものでもマーケットで売っているものとは、雲泥の差の美味しさなんです。トレーサビリティーがはっきりしているし、自分で汗をかいて収穫に至った満足感もある。マーケットで買ったキャベツやレタスと作ったのを冷蔵庫に入れるもちが全然違いますよ。恐ろしいですよ。どういう保存経路を踏まえて農作物がああやって並ぶに至るのか考えてしまいます。そういうものを自分が安心して、確実にこれは大丈夫だと手に入れたものを食する大切さを認識してもらいたい。



昨今は、どういう過程を経て食品が自分の手元にまでやってくるかはとても重要なことです。食べるものは特に、消費者が神経質になっている。そういう意識が醸成されて、日常的になってくると他の行動や買い物、使うものに対して、みんながポジティブなメンタリティを持つようになって、自分達で自分達の生活を守っていくために意見を積極的に言うことに繋がっていくような気がする。

★岸田／一言だけ。そういうのは既に総合学習の中で企業とNPOが協働して、苗から育ててというようなことを実際にやっているところが結構増えています。実は昨年度のパートナーシップ大賞の入賞の中にもそういうのが入っています。

### ■身近な農地から、食べる・生きる・育むを体感したい

★長谷川／それに関連して少し。名古屋市なんかで公園を花壇にしているくらいだったら、農地にして食

というものを理解してもらうことが一つ。それと、名古屋市内の空気の悪いところの作物なんて誰も食べたくないじゃないですか。だからあえて作らせて、空気が美味しい空気がいいよねと思わせていくものとしてあつたらしいんじゃないかな。

特に空気ってあんまり意識されないでしょ。だけど空気こそ、ものの30秒無いと死んじゃうんだよね。だからそういう意味でも、まちづくりとあわせた時に身近な環境、特に口に入れるものは良いものかいいので、私も家のすぐそばに農地が欲しい。

### ■大根の話に隠された農地崩壊の怖い話

★久野／アスファルト破って出てきた大根の話があつたじゃないですか。

ある意味凄いのではなくて可愛そうだと思うんだけどね。

★長谷川／一番凄く、マスコミに言いたかったのは、あれこそね、農地が崩壊している証拠だと、何故思わないんだろうと思いました。種をしっかり実になった時に取りきれていない。おじいちゃん達が手がかけられないもんだから花が咲いちゃって、種がとんでったわけでしょ。

★久野／恐いのはマスコミの評論っていうのは見てる方がそういうもんだと信じちゃうこと。先程お二人がおっしゃっていた、いいことは報道しなくて、悪いことしか報道しないというマスコミ。日本のジャーナリズムは地に落ちている。だんだん違う話になりますね。

★司会（倉員）／そろそろまとめていきます。我々建コンが作りました基本構想計画の内容をみてお話を頂きましたが、やはり日本は農業を中心として、自給自足の暮らしをして地味ではあるけれども、しっかりと自然と対応していく国土作りと管理が最終的にクローズアップしていくと言うことでしょう。

今日は我々の基本計画について色々なご意見を沢山頂きました。ありがとうございました。菱川先生、お話を付け加えてください。

### ■地球は自分たちで守らなくてはならない

★菱川／こういう構想をするのに宗教団体、教祖様のいる宗教団体が移住するには、全く適しちゃうわけですね。絶対君主がいるところでまとめるのもしっかり出来ますよね。

私が思ったのは昔の漫画であった宇宙船構想。世代を超えて何光年か離れたところへ行く。そのなかで全部自給自足をして繋いでいくという考え方。そ

の発想が湧いたんです。地球を宇宙船と捉えて、地球環境が如何に大切かそれを我々は小さいところから実践していくんだと言う意識改革を訴えていく。この今までいいの、本当に大丈夫なの、地球は。自分達できちんとしたものを守らなければいけないんじゃないの。

もう一つは全員参加というのはまとまりませんよ。これは、どうしても言いたい放題になってしまします。先ほど私が宗教とか絶対君主を持ち出したんですが、ある一定の代表の中でまとめてどうでしょうと。それを叩き台にして、そこから答えを出していくという発想を持たないと、全員で一から叩き出していくのは、私の経験からすると難しいなと思います。

### ■町並み景観と住居環境を守り育てる、小布施町

★菱川／今、小布施町という町が長野県と山梨県の県境にありますが、あそこが人口流入を阻止しているんですね。もう、来なくてもいい。自分達の町を守っていくのだと。自分ところの町をゾーン指定して、町のあれば住居地域、公園地域、耕作地域と言うようにしています。あの栗菓子が有名なところなんですが、そのように町民が自分たちでガードしている町が現実にあるんです。

★久野／入ってくることに対して何をガードしているんですか。

★菱川／意見の違う人が入ってくると壊される。

町なんかも住環境規制もあって、家を建て替えるときには役場に申請をするんですね。役場がタダで図面を書いている。それが町並みの景観を守って町並み指定としている。

★長谷川／本当に凄い勉強会やっていますよ。

★菱川／それが、十分町として機能していまして、納税率が全国一位だそうです。殆ど100パーセントに近い納税率だそうです。

そういうところが保険料の納付率ももの凄くいいそうです。やはり意識が違つたりするんですよね。

★久野／住民の取捨選択のなかで、その統一ができるって凄いですね。

★菱川／聞いてくると本当にビックリしますよ。

もううちは、流入はいらないんだ。要するに町の考え方が変わっててしまうからということですよ。

### ■複数にまたがる町づくりに市民が参加

★岸田／ちょっとだけ。今のは一つの町ですよね。実は今、上海の汚さと空気の悪さを実感しているんですけど、それと比較してオレゴン州のポートランドに行つた時に、私はそこの町が凄く気に入ったんです。それは何かと言うと町の中に緑が沢山あり、ちょっと郊外にいくとワイナリーがあつたりとかして…。

今一つの町と言つたけれども、行政区で言うと複数の町だったりとか複数の案を統合的に考える仕組ができているんですよね。それも市民公募で選ばれていて、メトロという機構なんですけれども、「自然のふれあい」、「綺麗な水と空気」、「バランスの取れた交通機関」、「安全安心を持つ地域社会」、「芸術と文化のふれあい」、「健全な地域経済」、「次世代のための資源」この7つのことを市民がいろいろ考えている。

★久野／テーマごとに市民達が参加する委員会みたいなものですか。

★岸田／細かいところについては、そこを直接調べているわけではないのですが、仕組としてこういうのがあるんだなと。しかも交通機関も凄く便利なんですね。一定区間のところは無料だったり、空港からも凄く便利。そういった意味で、確かに一つのまちでも出来るかもしれないけれど、まちづくりはひろく全体を見通していく必要がある。特に愛知県なんかは複数にまたがるような仕組をきっちり作るということがこれから絶対に必要になってくるだろうなと。まさに、この理想図に描かれていることと実際に重なっているなと思ったので紹介をしました。

### ■薮から棒に「薮と日本人の感覚」について

★本守／「紫陽花や薮を小庭の別座敷」と芭蕉が愛知県二川の妙泉寺で詠んだ句があります。僕は雑草とか薮に興味があります。薮と言うのは音で言うと「そう」と読むらしいです。

草木の交錯叢生するところという意味ですが、とにかく日本人は、日本では繁茂が烈しいせいか薮が嫌いですね。薮を刈る事が生活だと言うくらいです。欧洲は牧草地が多くて管理も行き届いている面もあるかと思いますが、薮はあまり見られないですね。その分、薮は貴重品となりつつあります。日本人はビオトープ作りと称して薮を払うとか、とにかく薮があると鹿やイノシシが闊歩してという感覚ですね。

薮はミニビオトープです。もっと日本でも薮を大事にしてもらいたいな。薮を作つてもらいたいな。というのが、芭蕉の句のところです。薮は大事だよと言う話をさせていただきました。

★司会（倉員）／非常に身近な話で久野さんの話も地球温暖化を遅らせるための足元からの行動。薮を大事にするというのもまた足元から将来の地域づくりへの一つの方策でしょう。どうもありがとうございました。最後に久野さんの方から、我々建コンの代表という立場でお話ください。

### ■清掃活動など地域に繋がる協会の宣伝

★久野／協会の宣伝になつてしまふかもしれません、今の薮の話。実は今、我々薮と戦つてゐます。愛地建コンの社長会が愛知県管理下の公園の清掃をやっておりまして、去年は大高緑地にお邪魔しまして、今年は牧野ヶ池緑地で11月にまた社長の面々達がそろってゴミ拾いをやります。これがですね、植え込みの中に色んなゴミを捨ててあるんですね。これは本当に薮の中から驚くような物が出てくるのですが。



それから社長達だけでやるフリーマーケットと言ふものがあります。そこで貯めた資金を使って、今度は各社年末の大掃除の

時に出た、使っていない文房具をラオスの山奥の子供達に送る資金に使おうと。やっている事が非常にボランティアな感じではありますが、僕らとしては「この地域で建設コンサルタントを生業とする人間たちが、社業の為にではなくて何が地域に対して出来るのか」と言う事を常に考えているのがこの協会の主旨です。「受注のための陳情」という活動から随分主旨が変わつてきました。

今は発注者への直接的な働きかけではなくて、我々が何か地域の為にできるかという活動が結果的に繋がつてきています。そういう意味では色々な事でこちらから協力の打診をさせていただきますけども、是非、今後もご理解とご協力を来て頂き、活動に賛成していただければありがたい。

会を代表して本日はありがとうございました。

★全員／拍手

今回の「座談会特集」の編集に当たりましては、誌面の関係で一部割愛したところがありますが、ご了承ください。